

2015 年度の能代市におけるキイチゴの栽培普及

および市場開拓に関する経営実証研究

今西弘幸¹, 林芙俊², 津田渉², 酒井徹²,
渡部信之³, 佐々木松夫⁴, 竹嶋高明⁴

¹ 秋田県立大学生物資源科学部附属フィールド教育研究センター

² 秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科

³ 能代市環境産業部農業技術センター

⁴ 能代市環境産業部

能代市では、市の総合計画における「新規作物共同研究事業」および「能代の果樹生産強化等支援事業費補助金」事業を掲げ、収益性の高い農業を目指した産地化を図ることとしている。キイチゴをその作目の一つと位置付け、産地形成の取り組みが 2015 年度から開始された。1) キイチゴ生産・利用にかかわる個人・企業が参画する組織を設立し、その運営を支援すること、2) 能代市農業技術センターにおいて、キイチゴ栽培管理の見本・研修ほ場を整え、栽培技術の普及を図ること、および 3) 生産者・実需者との意見交換会を開催し、市場を開拓することの 3 点を目標とした。さらに、他の小果樹類での取り組み事例を参考にして、今後の発展方策を探った。生産者および実需者から構成される「能代キイチゴ研究会」が発足した。現地研修会を 7 回開催し、栽培管理技術の普及を図り、販売方法について意見交換を行った。能代市内の企業にキイチゴ加工品を試作してもらい、地元の市場開拓を図った。青森県におけるカシスの生産加工振興の取り組みを視察し、収穫作業での工夫や委託加工による一次加工品での販売を行っていることが分かり、キイチゴの産地形成において参考にできるものと考えられる。

キーワード: キイチゴ, 能代, 組織化, 研修会, 洋菓子店, 加工

キイチゴは欧米ではラズベリー (*Rubus idaeus* L.) やブラックベリー (*R. subgenus Rubus*) などの名前で知られている主要な果樹の一つであり、わが国では 1990 (平成 2) 年頃から輸入量が増加し、最近 3 年間では 3500~3700t/年の輸入量となっており、キイチゴ類への需要は高い。しかし、国内に主要産地がなく、国内産の果実は市場流通していない。稲作を基幹としつつも、青果物など複合品目を導入することで、地域農業の複合化を支援することは秋田県農業の重点課題となっており、これまでに五城目町との産学連携・共同研究推進事業を中心とした、秋田におけるキイチゴの産地化を進めてきており、国

内有数のキイチゴ産地に成長しつつある (Miyairi & Imanishi, 2012)。今回の連携先である能代市では、市の総合計画における「新規作物共同研究事業」および「能代の果樹生産強化等支援事業費補助金」事業を掲げ、収益性の高い農業を目指した産地化を図ることとし、キイチゴをその作目の一つと位置付けている。

そこで本研究では、新たなキイチゴ産地の形成を図るため、2015 年度から能代市と連携して経営実証的に取り組んだ。本年度は、新規にキイチゴ栽培を行うことを踏まえ、①キイチゴ生産・利用にかかわる個人・企業が参画する組織を設立し、その運営を

支援すること、②能代市農業技術センターにおいて、キイチゴ栽培管理の見本・研修ほ場を整え、栽培技術の普及を図ること、および③生産者・実需者との意見交換会を開催し、市場を開拓することの3点を目標とした。さらに、他の小果樹類での取り組み事例を参考にして、今後の発展方策を探ることとした。

産地創生にかかわる参加者の組織化

2015年2月27日に能代市農業技術センターにおいて、「能代をキイチゴの産地にしませんか？」と題して、生産を検討している市民に講演を行い、参加者から苗木購入の予約を受け付けた。8月24日に生産者17個人・団体から構成された「能代キイチゴ研究会」（以下、研究会とする）が発足した。研究会の規約は、五城目町での先行事例を参考に作成された。その後、研究会は新たな生産者および実需者を加え、2016年3月末日時点で22個人・団体となった。

栽培管理技術の普及

2015年度の現地研修会を7回開催し、時期ごとの栽培管理方法の説明、翌年以降の販売についての意見交換を行った。7月7日に農業技術センターにおいて第1回目の研修会を開催し、栽培希望者に苗木を配布し、定植方法および栽培管理方法について説明を行った（図1）。9月14日には、二ツ井地域の生産者ほ場において研修会を開催し、栽培管理方法の説明、生育状況の確認および意見交換を行った。10月23日の研修会は、五城目町キイチゴ研究会と合同で行い、五城目町で開催した。キイチゴ生産に組み始めてから8年目を迎える五城目町では、成木状態のほ場での栽培状況をみたことにより、翌年以降の栽培状態を予測することができた。また、五城目町の生産者との意見交換によって、生産・販売への展望や方向性を見出すことができたものと思われる。11月および12月の研修会は農業技術センターにおいて行われ、秋果品種の‘ヘリテージ’の収穫や冬期の管理方法について説明を行った。以上のことを通じて、農業技術センターに見本・研修ほ場が整えられ、栽培技術を普及させるための拠点がで

きた。



図1 2015年7月7日能代キイチゴ研究会研修会の様子。

市場開拓のための取り組み

生産地域における需要を開拓し、“地元で根付いたキイチゴの産地”とするための活動として、能代市内3企業の協力により、キイチゴ果実を使った加工試作品をつくってもらった。試作品は、2016年1月28日の研修会の際に発表され、生産者と実需者の意見交換が行われた。洋菓子店からは、需要の現状について説明があり、生産者への今後の要望が語られた。生産者は、実需者の意見を聞くことができ、翌年以降の生産拡大への意欲と栽培管理・収穫調整の重要性について認識することができたものと考えられる。

他の小果樹類での取り組み事例の視察

キイチゴと同様に小果樹類に分類されるカシス（クロフサスグリ、ブラックカーランツ）での取り組み事例を参考にするため、能代キイチゴ研究会会員および五城目町キイチゴ研究会会員とともに、8月28日に青森カシスの会代表である石岡大亮氏（青森市）およびカシスの委託加工を行っている木村食品工業（平川市）を視察訪問した（図2）。カシスは青森市で精力的に生産加工振興が図られており、「あおりカシス」は農林水産省地理的表示（GI）登録産品第1号として登録されている。石岡氏はカシス



図2 2015年8月28日の青森県への視察研修の様子。
A；石岡大亮氏のほ場での説明，B；木村食品工業の果汁加工設備。

を2ha栽培しており，収穫作業時には短期の雇用労働力を投入し，収穫は果実の熟度の違いがあるものの1度で済ませている。販売先の加工業者はHACCPの関係から果実そのものを入手するのではなく一次加工品を購入するため，収穫果実の大部分が委託加工されている。木村食品工業では，山菜，リンゴ，ブドウ，カット野菜など多様な加工を行っている。また，カシスのように小ロットの加工にも対応しており，キイチゴの一次加工にも対応可能であることが明らかとなった。このことから，キイチゴの産地における一次加工による発展に適用できるものと考えられる。

まとめ

本年度は，キイチゴ栽培に取り組む初年度であるため，参画者を募り組織化することを第一の目標とし，これを実現することができた。また，地元のキイチゴ果実を積極的に使う意向を示す企業の存在に

より，地域の市場開拓の端緒となるものと考えられる。次年度以降も技術開発とその実践に向けての研修会を通じた支援，視察研修や意見交換を重ね，継続的な発展に取り組む予定である。本事業を実施することにより，県内の新しい生産地域が加わることとなるため，秋田県におけるキイチゴの産地化に向けて一層の前進が期待される。

謝辞

能代市農業技術センターの職員の皆様には，キイチゴの栽培管理に従事していただいたことに深く感謝申し上げます。本研究は，秋田県立大学平成27年度産学連携・共同研究推進事業によって行われた。

文献

Miyairi, T. and Imanishi, H. (2012). The raspberry supply chain and issues pertaining to raspberry production areas in Japan. *Acta Horticulturae*, 926, 737-742.

〔平成28年7月20日受付〕
〔平成28年7月31日受理〕

Spread of Raspberry Production and Development of the Market at Noshiro in the 2015 Business Year

Hiroyuki Imanishi¹, Futoshi Hayashi², Wataru Tsuda², Toru Sakai²,
Nobuyuki Watanabe³, Matsuo Sasaki⁴, Takaaki Takeshima⁴

¹ *Field Education and Research Center, Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University*

² *Department of Agribusiness, Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University*

³ *Agricultural Technology Center, Environment and Industry Department, Noshiro City Office*

⁴ *Environment and Industry Department, Noshiro City Office*

Noshiro City seeks to expand the area under agriculture with products yielding good returns by including “the cooperation study program for newly induced crop” and “the subsidy for support for the enhancement of fruit tree production in Noshiro” in the comprehensive plan of Noshiro City. Since raspberry was identified as one of the newly induced crops, its production was started in Noshiro in 2015. Its three main objectives were as follows: 1) Supporting the establishment and management of organizations comprising individuals and companies involved in raspberry production and use; 2) Extending raspberry cultivation techniques by establishing an Agricultural Technology Center, Noshiro City, as a model field; and 3) Developing the market through discussions among producers and consumers. In addition, direction of the development was explored refer to case of another small fruit. The Noshiro Caneberry Association comprising producers and users was established. It held seven meetings, at which we discussed cultivation techniques and shared sales tips. We also tried to develop the local market by introducing trial products, in the production of which raspberries were used by companies in Noshiro. By examining the promotion of cassis production and processing in Aomori, we discovered how producers manage labor during harvesting and sell primary processed products on consignment. We believe these can be adapted effectively to raspberry production.

Keywords: raspberry, Noshiro, organization, confectionery, processing